2017年度

日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会年次大会

大会テーマ 貧困をどう捉え、いかに克服していくか

開催日 2018年2月10日(土)

参加費 **無料**

場所 龍谷大学　深草キャンパス
和顔館地下1階 〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67
http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_fukakusa.html

主催 日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会

参加申し込み・問い合わせ

実行委員会庶務担当の茶谷智之(anton7801@gmail.com)宛に、①お名前、②ご所属をご記入のうえ、2018年1月31日(水)までにメールでお知らせください。件名には「関西社会福祉学会年次大会シンポ」と明記ください。

大会趣旨

日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会　2017年度年次大会では、変わりつつある貧困の質をどう捉え、いかに克服していくかをテーマにしたシンポジウムを開催いたします。子ども、受刑者、野宿者から見えてくる貧困と求められる関与について、深い知見を有する三人のシンポジストからご発題いただき、議論を深めたいと考えております。

また、例年どおり日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会の会員による自由研究発表、日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会の総会も開催されます。

多数のご参加をお待ちしております。

プログラム

9:30～	**受付開始**
10:00～12:00	**自由研究発表**
12:00～12:45	**休憩、昼食**
12:45～13:15	**日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会総会**
13:20～13:30	**会長挨拶・開催校挨拶**
13:30～16:30	**シンポジウム**

【テーマ】

貧困をどう捉え、いかに克服していくかー子ども、受刑者、野宿者からの問いー

【シンポジストとご演題】

山野則子氏（大阪府立大学教授）　「子どもから見えてくる貧困と求められる関与」
浜井浩一氏（龍谷大学教授）　「受刑者から見えてくる貧困と求められる関与」
舟木浩氏　（弁護士）　「野宿者から見えてくる貧困と求められる関与」

【コーディネーター】

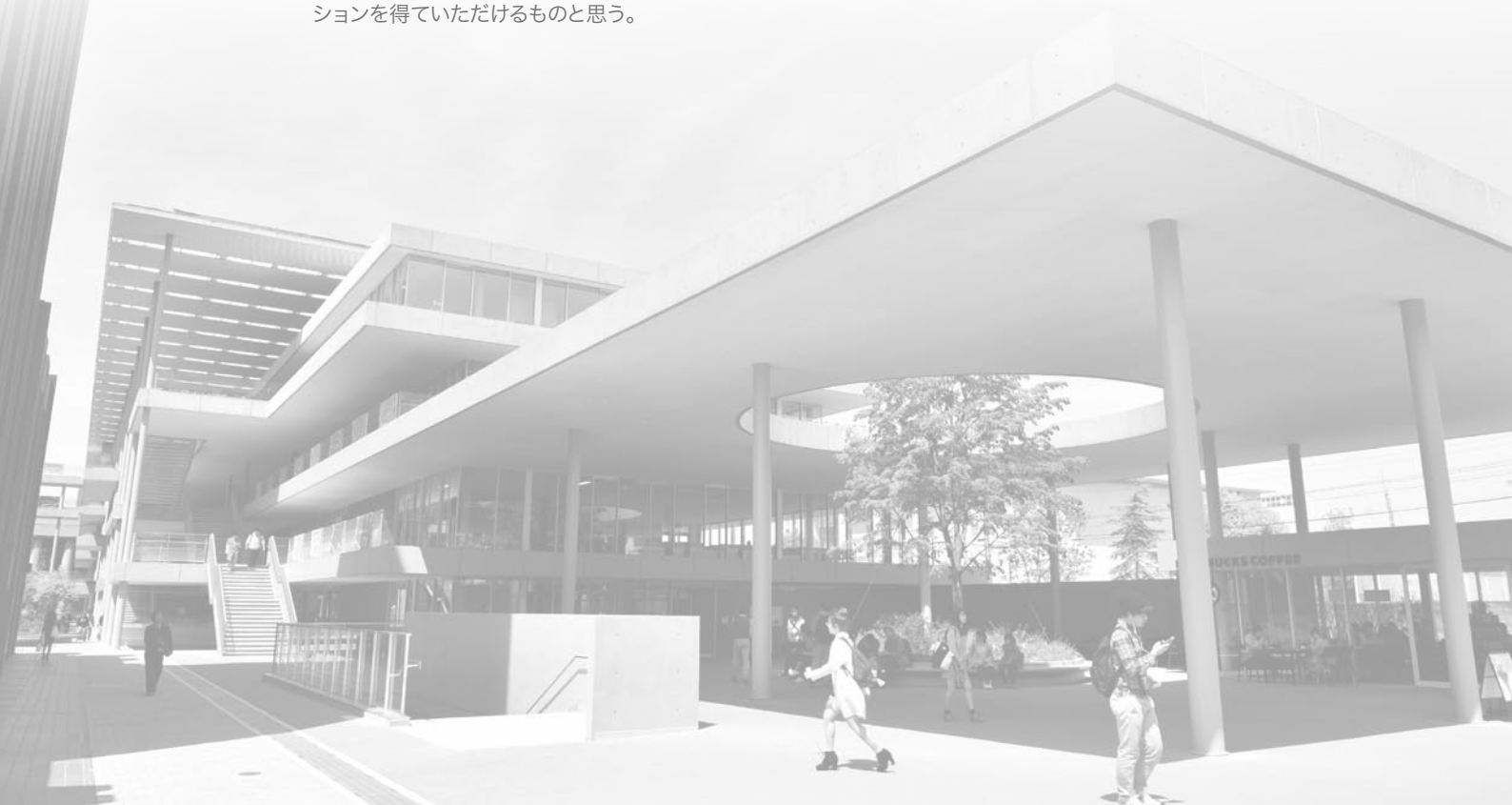
加藤博史氏（龍谷大学短期大学部教授）

【企画趣旨】

貧困の質が変わりつつある。経済、政治システムは巨大化し、人間の手段化・操作化が進む。マスメディアは物欲競争を煽る。一方で、SNSが普及し、人間の孤立化と分断化も進展している。共同し分かち合う世界が縮まり、人と物と組織を操作管理する世界が拡大する。発達障害、知的障害、精神障害、そのボーダーラインにあることなどによって、目先が利くことや、人と物と組織を操作管理することが不得手な人は、管理社会に適応できず、貧困化する。貧困は、生活基盤の脆弱化と人間関係の希薄化と連関しつつ進行し、そのような人たちは、社会の暗がりへと排斥されて見えなくなっていく。

多くの家庭では、多様な共同的紐帯を剝ぎ取られ、養育のための「レジリアンス」を保つ臨界点を超え、〈見えにくいネグレクト〉が蔓延しているといえよう。その集約的表現が、母子家庭、児童虐待家庭なのであろう。所得保障を軽視してはならないが、貧困克服を所得保障中心に語ってはならない。「晩婚化」、「非婚化」、「晩産化」、「非産化」の背後には、〈人間関係のネグレクト傾向〉が、つまり、「重く濃密な人間関係はめんどくさい」、というケアすることからの回避傾向が見て取れるのではなかろうか。両親が揃っている家庭にも、生活の貧困化は深く浸潤している。

刑務所に入っている6万人のうち、75%が、知能指数相当値90以下とされる。しかも、「帰る家庭」のない人が多数を占める。受刑者の問題は、社会と人間関係の貧困化の象徴といえる。

野宿者も同様である。不器用な生き方しかできない人が、共同的な人間関係を失ったとき、心を傷つけ、橋の下に逃れて居場所を見つける。このような人たちには、所得保障とリンクした〈生活基盤〉と〈人間関係〉の保障が必要なのではないか。

そのために、どのようなアプローチが有意味で有効で持続可能なのだろうか。専門職としてソーシャルワーカーに求められるものと、生活者として協働していくべきものを語り合いたい。深い知見を有する三人のシンポジストから、大きなインスピレーションを得ていただけるものと思う。